

No.2 「アンチバイオグラム」の巻



薬剤耐性菌の現状

小動物診療においても薬剤耐性菌が問題となっています。特に国内では下記の薬剤耐性菌が高率※に分離されています。

1. メチシリン耐性ブドウ球菌 (MRS)
2. 基質拡張型βラクタマーゼ産生菌 (ESBL)

※詳細は当社ホームページをご参照下さい。



アンチバイオグラムとは？

国、地域、動物病院ごとに分離された各種細菌に対する薬剤感受性結果を集計し、それぞれの菌種における各種抗菌薬についての感受性率をまとめたものです。地域あるいは動物病院により薬剤感受性率は異なるため、各施設ごとに作成する必要があります。細菌に対する一般的なアンチバイオグラムの例を下記にお示しします。

施設名	主要菌の抗菌薬感受性率																
	上段:各抗菌薬に対して感受性を示す株の割合(%) 下段:各菌種に対する各抗菌薬の感受性検査実施数																
	薬剤別感受性率																
菌名	ABPC	SBT/ABPC	CVA-AMPC	GM	MINO	EM	CEZ	CTM	CTR	CFDN	CFPM	GLDM	OBFX	ST	FOM	IPM	VCM
<i>Staphylococcus pseudintermedius</i>	23 (21)	100 (21)		57 (21)	100 (21)	76 (21)	100 (21)	100 (21)		100 (21)		76 (21)	80 (21)	66 (21)	100 (21)	100 (21)	100 (21)
<i>Staphylococcus pseudintermedius</i> MRS	0 (5)	0 (5)		0 (5)	80 (5)	0 (5)	0 (5)	0 (5)		0 (5)		0 (5)	0 (5)	20 (5)	100 (5)	0 (5)	100 (5)
<i>Escherichia coli</i> (大腸菌)	72 (50)		90 (50)	98 (50)	80 (50)		92 (50)	94 (50)	96 (50)	92 (50)	100 (50)		80 (50)	88 (50)	98 (50)	100 (50)	

どうやって使用するの？

初期治療を開始するときは細菌培養の検査結果が出ていません。臨床症状、感染部位等から起炎菌を推定し、抗菌薬選択の際にアンチバイオグラムを活用します。例えば尿路感染症の起炎菌第1位は大腸菌です。上記のアンチバイオグラムによるとオルビフロキサシンによる治療の場合、大腸菌の20%が耐性です。2割が効かないと予測できれば、状態悪化時の対応が迅速にできます。

当社では無料でアンチバイオグラムを作成いたします！

微生物検査 統計情報サービスの一環として2018年11月1日(木)より薬剤感受性率(アンチバイオグラム)のご提供を開始いたしました。収集には3ヶ月から1年間の微生物検査データの蓄積が必要となります。詳しくはデータインフォメーションにお問い合わせ下さい。



お問合せ ▶ <http://sanritsu.zelkova.biz/>
sanritsuzelkova@san-g.com

〒135-0011 東京都江東区扇橋3-5-5
 TEL. 03-6666-7631 FAX. 03-6666-7632

(文責：露木勇三)